

みんなで楽しく農業やろう！

「はらぺ子みつきり」始めました



田植えから一ヶ月余りが経過し、苗もずいぶん成長してきました。私たちが子供のころは、農繁作業などという休みが春秋にあり、田植えや稲刈りを小学生も手伝っていました。（あまり嬉しい休みではなかったですが。）しかし、最近では農作業の機械化や共同化が進み、米づくりは父ちゃんたちの仕事という感じになっています。私は八年前に箕作営農組合の事務局を引き受けました。その当時は自分たちの父親世代から私たちの世代への引継ぎの時期でした。その後、もっと若い人に農業に関わってもらおうと、私たちの息子世代にも声を掛け農作業に加わってもらいました。今では箕作営農組合では機械作業のオペレーターに地区の二十代、三十代の若者も加わり、広い世代で楽しく農作業に取り組んでいます。

次は、子どもたちやお母さんたちにも農業に関わってもらいたい

なあと、営農組合の役員会にも話をし、子育て中の人たちに声を掛け、「ぜひやりましょう。」と乗ってくれました。幸い、箕作地区では最近子供が増えてきています。子供たちと一緒に田植えをして、稲刈りして、最後は餅つきしようという提案したら、途中でもいろいろイベントをやって、食べるって楽しい、それを作るのも楽しいということ、「はらぺ子みつきり」というグループ名に決まり、年間を通じて楽しんでいこうということになりました。「みつきり」には、みんなで、つくる、くらしの、りそうという気持ちも込められています。

田んぼは地区内で子どもたちの通学路に近いところで、田植え後の観察ができる場所ということで、元村長の故島田茂樹さんの奥さんにお願したところ、家の近くの田んぼ二枚を快く貸してくださり、日頃の水管理も引き受けていただきました。

発起人五人で何度か打合せを行い、五月二十八日午後田植えを行うこととし、準備を進めました。当日は天候にも恵まれ、箕作の子供たち十八人が集まりました。最初は田んぼに入るのが気持ち悪いと言っていた子どもたちも次第に慣れ、一生懸命田植えをしてくれました。田んぼの上の方の土は温かいけど下の方は冷たい、なんて田植えをしなければ分からないことにも気付いたようです。最後は泥だらけになりました。最後は一枚の田んぼの田植えが終わりました。その後は焼き肉会を楽しみました。

これから夏には成長を観察しながら焼き肉や流しそうめんの交流、秋には稲刈りと餅つきを計画しています。またこれからは世代間の交流も進めていきたいと考えています。イモを作って焼き芋やりたいなどいろいろな意見があるので、活動を広げていきたいと思っています。

（はらぺ子みつきり 上倉久佳）

公民館報

さかえ

第353号

令和5年7月1日発行

発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1

電話
0269-87-2100

編集
栄村公民館報編集委員会



ビンテージバイクを楽しむ

今回のスポットは小赤沢の福原秀樹さん。以前にも掲載がありました。が、やっぱりもう少しお話を聞きたい！という声を受け、取材に伺いました。

スポット!

楽しい人生に趣味は欠かせない！
 家のことに百姓仕事、地区行事いろいろある。そんな日常の中で趣味を持ち、いきいき輝く方にスポット！
 その楽しさ・魅力を発信します。



◆バイクとの出会いはいつ頃ですか？

高校生の時。新車じゃなくて、ビンテージ物の中古車に興味がありました。20代から廃車になったバイクの部品を集め出しました。

◆そついった部品はどうやって集めたのですか？

バイク仲間からの情報だったり、インターネットで調べてみた



部品や修理用品の棚

り。かなり遠くまで取りに行くことも。最近もインターネットで千葉の海岸沿いでバイクが廃車になっていると聞いて夜通し取りに行きました！

◆古いバイクを直して修理をするにはどのくらいの時間が必要ですか？

修理だけ集中してやれば、1か月くらいできると思うけど、家

◆これからどんなことを考えていますか？

人のバイクや車を直して、商売はしたくないな。あくまでも自分の趣味の範囲内で。いろんな車やバイクに出会えるとうれしいな。

自分で作り出す楽しみ、昔のものを再現する楽しみ。いろんな楽しみ方がありますね。これから何ができるかワクワクします。



栄村風土記

⑦

く永遠に残したい
栄村の暮らし

時代の移り変わりとともに村民の暮らしも変容しています。ここでは、後世へと伝えたい、栄村の文化を紹介します。

集落ごと小さな祭り

栄村でお祭りといえば夏、秋に行う集落のお宮様の祭りや、小正月の道陸神祭りがありますね。栄村は本当に集落ごとのお祭りがよく残っている地域で、この2つのお祭りだけでもすごいのですが、小さな祭りもたくさん残っています。

例えば、長瀬で行われている6月の田植えの後のしつけ祭り、7月の丑祭り、8月の風祭り。どれも悪いことが起こらず稲がよく育つようにという祈願で、お宮で般若心経を3回も唱えます。7月に箕作や志久見で行われるテンノサマ(オテンノサマ)。箕作では夕方お宮に区の役員が集まり、参拝します。そのあと役員会で一杯やるのだとか。志久見では、朝5時にお宮に集まり、般若心経を1回唱えます。どちらも初物のキユウリなどをお供えするそうです。

こういった集落ごとの小さなお祭りはまだまだあり、以前記事を書け

た小赤沢の春祭りや山の神を祭る十二講、秋葉様、また個人の屋敷神の祭りや狐様を祭る初午なども含めると相当な数になると思います。日常に季節ごとの区切りをつけるとともに、生活の様々なことについて祈願をする。こういった小さな祭りがこれからも私たちの生活を形作る一つとして残っていくと良いですね。



志久見のオテンノサマ (2018年)



久しぶりの笑い声が響きました

白鳥集落 たけのご祭り

白鳥集落の竹の子狩りはまず野々海に竹の子を採りに行くところから始まります。

6月18日の早朝、公民館長や有志が竹の子を採りに行き、8時過ぎには公民館に帰ってきます。今年には70キロほど採りました。



採ってきた竹の子

その竹の子を集まった「女しょ」を中心に皮をむき、切って公民館の役員が美味しく調理

します、今回の「ごつつお」は竹の子汁、ちらし、漬け物、サラダ、フライドポテトなど、テーブルに沢山並んでいます。

全ての飲み物、食べ物、箸、皿などは全部公民館で準備するので住民は全員手ぶらで集合です。

なにせ4年ぶりの開催、ばあちゃんもじいちゃんも子供たちも館長とのじゃんけん大会では大きな笑い声が。こんなに楽しいのは久しぶり。

開催するには大変な苦労がありますが、みんなの笑顔を見ると「やってよかったなあ」と思いました。(白鳥公民館)





ばあのごっつお紹介します！

竹の子汁の具材あれこれ

☆材 料☆ 15人分

- ・根曲り竹の子… 2キロ (皮をむくと 約625g)
- ・身欠きにしん (半乾) …… 3本 (又はさば缶 1個200g)
- ・玉ねぎ… 1個半 (400g)
- ・だし汁… 3リットル
- ・味噌… 290g



☆作り方☆

- ①竹の子は皮をむき、節のそばの固いところは切り落とし食べやすい大きさに切る。
- ②にしんは1cm間隔にぶつ切り。
- ③鍋にだし汁と竹の子を入れ沸騰してから強火で5分ほど煮る。
- ④食べやすい大きさに切った玉ねぎ、にしん (又はさば缶) を入れて煮る。
- ⑤程よく煮えたところで味噌を加える。

20ページにも寄稿頂いたように、6月は各集落で田休みが行われたのではないかと思えます。

田休みといえばこの料理！の「竹の子汁」。編集委員会で打ち合わせていたところ、集落ごとに具材がこんな違うのか！と話題になりました。「ばあのごっつおうんめえのし」に掲載されているレシピは左のようですが、これに加えて、委員の皆さんと、公民館職員の集落では次のようでした。

- ・小滝 ウド
 - ・青倉 じゃがいも、ウド
 - ・志久見 わらび
 - ・箕作 ウド、にしんとさば缶
 - ・長瀬 豚肉
 - ・小赤沢 ウド、ニンジン、じゃがいも
- (そのほか豆腐も入ります。)
- 寄稿を頂いた白鳥はなんと竹の子とさば缶としめじのみシンプルな汁。飯山ではとま卵も入るとか。
- 近くともいろいろ違って面白いですね。皆さんの集落では何を入れますか？

栄村の豊かな自然を表現してみました

〜チヨウとトンボのパネルを作りました〜

教育委員会事務局が行った昨年度までの動植物の調査で栄村にはチヨウ類が116種、トンボ類が71種確認されています。

調査員とフォトクにさかえの会員でもある月岡の市川さんのご協力により、公民館でチヨウとトンボの写真パネルを作りました。

一覧にするとチヨウもトンボもいろんな色や形があるのがわかり

ますね。赤とんぼでも細部に違いがあったり、モンシロチヨウかと思ったら違う種類のチヨウだった。写真には名前もついています。

今は小学校と中学校に展示をさせていただいておりますが、しばらくすると役場やこらっせに移す予定です。その際はぜひ見に来てくださいね。



あーそんなことがあったんか
〜ど先生の栄村昔語り〜 其の五十七

『元文五年の村定法 その2』



会 志 全 有 保 料 史 域 地
鈴木 努 (通称：ど先生)
イラスト作成：佐藤洋平

先月は豪雨に見舞われたかと思えば猛暑になったり、と何かと不順に過ぎました。お変わりなくお過ごしでしょうか。

前回の元文五年(一七四〇)三月の村定法の続きです。豆腐商売の禁止の意味について考えてみたいと思います。

栄村で豆腐といえは、「秋山記行」の一節に、小赤沢に宿を得た鈴木牧之に桶屋の団蔵が「秋山の名代の豆腐」と教えている粉豆腐があります。すいとんの身のような作り方をしており、『秋山郷のことばと暮らし』(栄村、

一九八二)によれば「コドーホ」と言ったようですが、これとは別に正月の年取りなど祝い事やお盆に欠かせない「トーホ」がありました。小赤沢の「とねんぼ」に堅豆腐作りに使った豆腐箱が展示されています。側板に水抜き孔の空いた豆腐箱は「豆腐集説」(明治五年刊)にも載っており、私たちが見慣れている四角い豆腐を作る道具が家々に備えられていたようです。『栄村東部谷の民俗』によれば豆腐は自家製造する家もありましたが、次第に買う物になっており、豆腐屋に材料を渡して製造を依頼する様子が見られます。ここから一つの見通しとして、村の「豆腐商売」は持ち込みの材料で豆腐作りをするやり方だった可能性があります。

古文書の文面は「一、豆腐仕売りは決してはならないこと。附けたり、村法度に致す上は外「破損」一切相調べてはならない」とあります。「仕売」はあまり用例の多くない言葉ですが、「仕」は「する」という意味なので「売ること」という意味になり、古文書の文は「豆腐を売ってはならない」と解釈できます。「附けたり」は「外」に続く部分が破れて三、四文字欠けていますが、ここを埋めるとしたら、「相調」とは買う、調達するということ意味なので、「外村にてもあるいは「外々よりも」になるのでは、と思います。とすれば「附けたり」の部分は「村法度にした上は外の村で豆腐を買うのもいけない」と考えられます。

では、豆腐を売るのがなぜ禁止されたのか。村定法に風紀取締の条文があるので、儉約のため豆腐という贅沢品を禁じた、という見方もできます。しかし豆腐は庶民の大事な栄養源で、幕府や諸大名も生活に欠かせないものとして豆腐の価格統制をかなり厳しく行っていました。例えば天保改革の時、江戸では豆腐一丁が四八文(当時の豆腐一丁は今の四倍のサイズ)では利益が出ない、と値上げのお願いをしたがなかなか認められなかった、ということがありました。江戸時代の豆腐はもはや贅沢品ではなかったようです。

堅豆腐作りの箱 (とねんぼ所蔵)



寛永飢饉の時、幕府が触れ出したもので、寛永十九年(一六四二)に当分の間は酒造を停止、また当年の豆腐製造の停止する、といい、さら翌二〇年に「土民仕置覚」を公布し、饅頭・切麦・素麺・蕎麦切・饅頭と豆腐は五穀の費え(無駄)なので商売無用(禁止)、また酒造や酒を買入れて商売することも禁止しました。村定法は酒の請売りも禁止しているので、どうも寛永期の「土民仕置覚」をなぞっているようです。西日本でかなりの被害を出した享保飢饉(享保一七・一七三二)から八年後の村定法を飢饉対策と簡単に結びつけるのは難しいですが、取締りの第一に豆腐、第二に請売り酒を掲げたことに、寛永期の触出しの影響を見てよいのではないかと思えます。続きます。

栄村公民館 図書室だより

..... 2023.7

今年も小学校1年生と年少のちゅうりっぷぐみさんに本のプレゼントをしました！

親子の本に対する関心を高め、読書の時間をより深く楽しめるよう、公民館図書室から対象の子どもたちへ本をプレゼントしました。



少し照れながら『ありがとう』と笑顔で受け取る子どもたち。読書離れが指摘されている今日ですが、たくさん本を読んで語彙力を高め、すべての学びの原点が豊かになることを願います。



▲ちゅうりっぷぐみさん



▲小学1年生

新着図書を紹介



- 二番目の悪者 (林 木林、庄野 ナホコ) / 世界で一番美しい太陽系図鑑 (マーカス、チャウン)
- 教誨 (柚月裕子) / 街とその不確かな壁 (村上春樹)
- 私雨邸の殺人に関する各人の視点 (渡辺 優) / Row&Row (村山由佳)
- やさしさを忘れぬうちに (川口俊和)
- よって件のごとし 三島屋変調百物語八之続 (宮部みゆき)
- 別冊 新・ビジュアル古代遺跡事典 (ニュートンプレス)
- 息が詰まるようなこの場所で (外山 薫) / シニアの高血压 (別冊NHK今日の健康)
- 70・80・90歳の若返り筋トレ (別冊NHK今日の健康)



★図書ボランティア募集中！★

栄村公民館図書室では土日の午前中、図書室を開けてくださるボランティアさんを募集しています。読書の習慣もできますよ。栄村在住の成人している方ならどなたでもできます。1～2か月に1度の当番です。お問い合わせは栄村教育委員会事務局 ☎87-3118までお願いします。

★栄村図書室開放時間★

平日 午前8時半～午後5時
土・日 午前9時～正午
※祝日は休館します

★休館日のお知らせ★

7月15日(土)～17日(月)
8月11日(金)～13日(日)

★お知らせ★

返却していない本をお持ちの方はなるべく早くお返してください。諸事情で図書室に来られない方は連絡してください。(☎87-3118)

頑張っている若者がいる！ということで先月は野球クラブの斎藤さんでした。引き続きさかえスポーツクラブのジュニア指導員を特集していきたいと思います。



私はさかえスポーツクラブで剣道をしています。一応指導者という立場ですが、子どもたちや他の先生方から色々学んでいます。

今年の4月には五段に合格しました！パチパチパチパチ。拍手ありがとうございます(笑)。

次の六段の受審は5年後なのでまた練習に励みたいと思います。

剣道クラブは今年度25周年の記念イベントや、スポーツクラブ主催でチャンバラ大会を行う予定です。ぜひ見学や、チャンバラ大会に参加して剣道を身近に感じてみてください。

戦いも受けて立ちますよ！



南雲一輝さん (月岡)

村民広場

おおきくな〜れ



しほは忙しいんだよね〜!

しほ
汐さん (5歳)

ばあの畑仕事や泥んこで田んぼの植えなおし？に大忙し。創作活動と歌とおしゃべりの集中力は尋常じゃないんです。最近は、水泳も頑張ってます。表情豊かな「汐のまま」、元気に楽しく成長してほしいです。

齋藤 寿さん・広美さん宅 (青倉)

ようこそ! 栄村へ!!



(左から)
山田隆文さん 近藤益男さん
山田文江さん (長瀬)

Q1 栄村に移住しようと決めた理由は?

① 今住んでいる三角屋根の家が目ぼれました。東京から来ましたがそちらで買ったなら何億もするよな素敵な家です。

栄村以外の戸隠や立科なども探しましたが、気に入った家がなく、栄村に来て家を見た瞬間の一目ぼれでした。

Q2 栄村に住んで感じることは?

① 景色がすごく、どこを見ても綺麗。食べ物も最高です。隣の人からお米もいただき、とてもおいしくて感動しました。東京よりのんびりしているところも好きです。

スーパーも近く、不便さも感じないなと思っています。

Q3 これからどのように過ごしていきたいですか?

① のんびり、なるようになるかなと思っています。友達や、近所の人などが集まれるあったかいカフェもできればと思っています。友人にスイーツを作ってもらって出したり、ピザ窯なんかも作ってみました。

🎐🎐🎐🎐🎐🎐


榮太鼓が4年ぶりに 神田祭に参加しました!

私たちは日本三大祭りの一つ、東京都千代田区の神田祭に併せて開催されている、太鼓フェスティバルに参加してきました。神田祭は表祭りと裏祭りが交互に開催され、私たちは表祭りのときに参加していました。今回はコロナ前の2019年5月以降4年ぶりの参加でした。

大人太鼓の発表に特別に榮太鼓と一緒に参加し、そして他のチームの方たちとの合同演奏にも参加しました。

とても緊張しましたが、精一杯演奏し楽しむことができ、たくさんのことを学ばせていただきました。とても良い思い出になりました。

榮ふるさと太鼓 小林優季乃 (中学3年生)



第45回栄村総合文化祭


出展者・出場者を 募集します!!

今年も10月14日(土)、15日(日)に栄村総合文化祭を開催予定です!

今年45周年の特別企画も予定しています。この機会に、趣味で作った作品をはじめ、個人的な研究、収集品のお披露目、親子で作ったものなど、ぜひ出展をしてください。

みんなのステージでは日頃の練習成果の発表から会場を盛り上げるための新企画まで、ご参加をお待ちしております。文化祭は皆さんの発表や作品によって盛り上がります。一生の思い出を皆で作らしましょう!!

詳細な内容などはこれからチラシを配布する予定です。準備をしながらおまちくださ〜い!



今月の一句 ~栄村俳句会~

<p>川霧の立ちて咲き満つ山ぼうし 一瞬にからすのとりこ燕の子</p> <p style="text-align: right;">関谷貞子</p>	<p>軽トラに抜かれる列車夏の空 田の畔を黄色く灯す母子草</p> <p style="text-align: right;">柳 静江</p>	<p>燕飛ぶ秋山郷は静かなり 柴犬や籐の陰で涼やかに</p> <p style="text-align: right;">山田くにえ</p>
<p>別れざわ桑の葉食みつ啼く子山羊 風青し恵みに感謝乳絞る</p> <p style="text-align: right;">杉浦恵子</p>		

編集後記

この三月に四十二年間務めた栄村役場を退職し、のんびりしています。そんな中、公民館長から館報編集委員を依頼されました。私は役場職員時代に広報担当を四年間、館報担当を五年間務めましたのでその時の経験が少しでもお役に立てればとお引き受けしました。

四月に無職(一応、自称農業とら)ことになっていきます。になり、毎日の通勤から解放され、四月はさて今日は何をしようかなという感じでしたが、五月は宮農組合の苗作りの作業から田植えと農作業に充実した日々を過ごしました。また何か地区で楽しいことをやりたいなと「はらへ子みつくり」の活動を始めたり、いろんな人との出会いの機会を作りたいと、県のシニア大学北信学部に入學させていただき、全く知らない人たちと交流しています。もう六十歳、いやいやまだ六十歳、楽しいことはいろいろあります。

㊤